


公共交通 メールマガジン

平成30年
7月4日発行
第58号


編集：国土交通省
総合政策局公共交通政策部




平素より、当メールマガジンをご愛読いただきありがとうございます。
今回は以下のラインナップでお送りいたします。

 平成30年版交通政策白書が完成！


(総合政策局公共交通政策部参事官室)

 ビジネス講座「現場発！公共交通魅力発見セミナー」が大盛況！！


(関東運輸局)

 第2回バスまちワークショップを開催！

(関東運輸局)

 「グリーンスローモビリティ」って何！？

(総合政策局環境政策課)

 中国運輸局が紹介する「公共交通での旅」

(中国運輸局)

<掲示板>

☆ 地域公共交通支援センターについて

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」について



平成30年版交通政策白書が完成！

(総合政策局 公共交通政策部 参事官室)

平成30年版交通政策白書が、6月5日(火)に閣議決定、国会報告されました。

交通政策白書は、交通政策基本法(平成25年法律第92号)第14条第1項及び第2項の規定に基づき、交通の動向及び政府が交通に関して講じた施策並びに交通に関して講じようとする施策について国会に報告するもので、平成27年以来毎年作成されており、今年で4年目です。

概要は、以下のとおりです。

(概要)

第1部 交通の動向

交通を取り巻く社会・経済の動向、各分野の交通の輸送量・ネットワーク・交通事業の最新の動向について整理しています。

第2部 少子高齢化・人口減少に対応した交通

毎年、特定のテーマを定めて特集を組んでいますが、今年版では「少子高齢化・人口減少」に焦点を当てました。我が国で急速に進行する少子高齢化・人口減少の動向と交通に及ぼす影響について示し、それらを踏まえて今日的な課題を整理するとともに、そうした課題に対応するために講じようとしている施策や取組を紹介しています。

第3部 平成29年度交通に関して講じた施策

第4部 平成30年度交通に関して講じようとする施策

様々な施策を定点観測している第3部、第4部では、「交通政策基本計画」(平成27年2月13日閣議決定)に盛り込まれた施策の進捗状況や今後の取組方針を整理しました。

交通政策白書に係る関係情報については、以下のホームページに掲載しておりますので、是非ご参照いただければと思います。

【報道発表資料】「平成29年度交通の動向」及び「平成30年度交通施策」(交通政策白書)について

http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo22_hh_000016.html

平成30年版交通政策白書について



第1部 交通の動向

【旅客輸送】(本文P28~31、P34~36)

- 国内旅客輸送は、鉄道や乗合バスは緩やかな増加傾向にあり、航空はリーマンショック前の水準まで回復し、全体では緩やかに増加。一方で、旅客船はここ数年横ばい、タクシーは長期にわたり減少。
- 国際航空旅客輸送は、ここ数年、訪日外国人旅行者の顕著な増加や、LCC利用者の急増に伴い急増。

【貨物輸送】(本文P32~33、P35~36)

- 国内貨物輸送は、いずれの交通モードにおいても、リーマンショックの影響で急減した後は概ね安定的に推移。一方で、宅配便取扱個数は、インターネット通販市場の拡大により大幅に増加。
- 国際貨物輸送は、リーマンショックによる落ち込みから回復した後、ここ数年においては、外航海運は横ばい、航空は増加傾向。

第11部 少子高齢化・人口減少に対応した交通【テーマ章】

課題 (本文P136)

- 高齢者の移動手段の確保が必要

取組 (本文P136~139)

- 公共交通機関の利用促進(地方公共団体の助成)
- 公共交通を補完する移動サービス(自家用有償運送の活用)
- 交通行政と福祉行政との連携
- ユニバーサルデザイン化・バリアフリー化の一層の推進

課題 (本文P141)

- 地域と連携して持続可能な地域公共交通ネットワークの形成に取り組むことが必要

取組 (本文P142~146)

- まちづくりと連携した地域公共交通網の形成(バス路線の再編など)
- 鉄道の上下分離など、事業構造の変更による路線維持

課題 (本文P146)

- 交通事業においても、潜在的な成長力を高め、働き手の減少を上回る生産性の向上が必要

取組 (本文P146~157)

- IoT、ビッグデータ、人工知能(AI)等のイノベーションの成果を交通にも活用
- 自動運転の実証実験(トラック隊列走行、中山間地域の道の駅等を拠点とした自動運転サービス)
- ドローンを使った荷物配送の検討

課題 (本文P158)

- 自動車運送事業の働き方改革が必要

取組 (本文P158~162)

- 労働生産性の向上
- 「荷待ち時間」の削減(トラック予約受付システムの導入促進等)
- 「宅配の再配達」削減(宅配ボックスのオープン化推進等)
- 貨客混載・共同輸送(バスを活用した貨客混載・共同輸送等)
- 多様な人材の確保・育成
- 力仕事からの解放(荷役作業の機械化)
- 泊まり勤務からの解放(中継輸送)
- 取引環境の適正化
- 運賃・料金の適正収受(標準貨物自動車運送約款の改正等)
- 長時間労働は正のためのインセンティブ・抑止力の強化
- ホワイト経営の見える化

課題 (本文P162)

- トラック予約受付システムの導入促進
- トラックドライバーが就業特待制を予約

取組 (本文P162~167)

- トラックの到着時間が平準化され、荷待ち時間が削減される

課題 (本文P167)

- 宅配ボックスのオープン化推進
- オープン化宅配ボックスを併用して、商業利用(店舗)で荷物の受け取りが可能

取組 (本文P167~170)

- 中継輸送
- 大企業工場、小売店、実証実験所

第3部 平成29年度交通に関して講じた施策 / 第4部 平成30年度交通に関して講じようとする施策

ビジネス講座「現場発！公共交通魅力発見セミナー」が大盛況！！

(関東運輸局)

関東運輸局交通政策部では、2017年10月より「関東運輸局ビジネス講座」と銘打ち、当部の所管業務である公共交通・物流・バリアフリー等を主なテーマに外部講師を招いた公開講座を開催しております。

5月18日（金）には、通算7回目となるビジネス講座「現場発！公共交通魅力発見セミナー」～サービス水準の向上に向けて～を開催しました。



トークセッションの様子

定員50名のところ、当日は、自治体職員、交通事業者、一般参加の方々等、計90名もの方が来場され、大変活気のあるセミナーとなりました。

今回の講師は、若手の現場職員として、鉄道事業者から横浜市交通局駅務員の村田千寿子氏、バス事業者から東京都交通局自動車部計画課の大野圭太氏及び関越交通株式会社バス乗務員の小林彩華氏、タクシー事業者から三和交通株式会社乗務員の鈴木貴滋氏の4氏をお招きしました。



左から、村田氏、大野氏、小林氏、鈴木氏

各講師より、自己紹介及び業務の概要についてお話をいただいた後に、当局職員の進行によるトークセッションを行い、現場での高齢者や外国人への対応及び安全に関する取組等、普段では聞くことが出来ない経験談やエピソードを数多くお話頂きました。

お客様と直接接する現場職員の安全及びサービスに対する意識の高さに触れるとともに、公共交通を安心して利用して頂くための工夫や努力を知ることができ、参加者の皆様にも、現場の重要性とその魅力を感じて頂けたのではないかと思います。

【今後の開催予定】

次回のビジネス講座は、7月26日（木）に「地域に根ざした公共交通を考える」～コミュニティバスのあれこれ～と題し、茨城県坂東市、神奈川県相模原市、神奈川県秦野市の交通担当者をお招きして、講義とトークセッションを行う予定です。

また、9月5日（水）には、特別編として、横浜市鶴見区民文化センターサルビアホールに於きまして、昨年9月開催の公共交通シンポジウム「まちの快適空間づくりから考える公共交通」の続編の開催を予定しております。

詳細及び参加申込みのご案内につきましては、今後、関東運輸局ホームページに掲載させていただきます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/koutuu_seisaku/business/index.html

第2回バスまちワークショップを開催！

(関東運輸局)

高齢者の急激な増加に伴い、高齢者の移動手段の確保が社会的な問題となっていますが、利用者が現実的にバスを利用したいと思える公共交通のサービス水準を達成するための課題の一つとして、バス停のベンチや屋根の整備といった、より人に優しいバスの「待ち」環境の形成が挙げられます。

関東運輸局交通政策部では、人に優しいバスの利用環境形成に焦点を当てた「バスまちワークショップ」を開催しており、バス事業者やバス協会、市町村、県、学識者、関係事業者・団体等様々な立場の方々にご出席いただいています。



6月11日に、(一社)東京バス協会において「第2回バスまちワークショップ」を開催しました。



冒頭に、事務局より、バス会社へ実施したアンケート結果を踏まえて5月に開催した意見交換会の概要や、バスまち環境改善に使用できる補助金、病院・商業施設の最寄りバス停のサンプル、先進事例の紹介等資料について説明しました。

続いて行った意見交換及び論点整理では、東海大学工学部土木工学科 梶田教授に進行をお願いし、事務局が説明した資料を基に、バスまち環境に関する課題や改善の方向性等を議論しました。出席者からは、バス停利用の提案等、多くの意見が寄せられ、活発な議論となりました。

【意見例】

- ・暑い時期に、ポール1本のバス停に、おばあちゃんがしゃがんで待っているのを見ると、バスなんか乗りたくないと思ってしまう。なんとかすべき。
- ・110番をする際、バス停の番号で場所を特定できるようにするなど、安全面での利用方法もあると思った。
- ・財政的に新型広告付き上屋を導入できない地域も、クラウドファンディングのような仕組みを作って、導入する方法もあるのではないかな。

今までのワークショップ及び意見交換会の議論の内容について、今後事務局では中間報告として取りまとめを行い、関係者と共有するとともに、ホームページ (http://www.tb.mlit.go.jp/kanto/koutuu_suisaku/seminar/index.html) にも公開する予定です。

「グリーンスローモビリティ」って何!?

(総合政策局 環境政策課)

地域が抱える様々な交通の課題の解決と、地域での低炭素型モビリティの導入を同時に進められる移動手段の一つとして、「グリーンスローモビリティ」があります。これは、電動で、時速 20km 未満で公道を走る 4 人乗り以上の乗り物のことを指します。

今般、グリーンスローモビリティの推進に向けて理解を深めていただくためのシンポジウムを 6 月 25 日に開催し、自治体や事業者など約 350 名の方々にお越し頂きました。

会場には、この日初お披露目となった eCOM8²のほか、7 人乗りゴルフカートなどのピカピカの車両 6 台が展示され、走行は出来なかったものの、実際に車両に触れていただき、座り心地やオープンさなどを確認いただきました。



ヤマハの 7 人乗りゴルフカート



初お披露目の eCOM8²

基調講演では、先行導入地域である、輪島商工会議所（石川県輪島市）、京都府、株式会社桐生再生（群馬県桐生市）より、各地域の導入した理由や苦労したお話などを交えながら活用事例をご紹介いただき、地域特性に合わせた導入が重要であることを再認識することができました。

パネルディスカッションでは、「地域を開く！グリーンスローモビリティの可能性について」をテーマに、熱い議論が繰り広げられました。皆さん、考えはそれぞれでも「このモビリティをもっと多くの人に知ってもらいたい」という想いは一緒であり、おおいに議論は盛り上がり、あっという間に 1 時間が過ぎていきました。

お越し頂いた方たちからは「先行導入地域の苦労した事など、参考になる話を聞くことができ、導入を検討する中で色々と不安に思っている部分が解消された」、「実際に車両が見られて良かった」などの声をいただきました。

国土交通省では、引き続き、グリーンスローモビリティの普及促進に向けた取組を行って参ります。

なお、現在、グリーンスローモビリティの活用に向けた実証調査の実施を希望する地方公共団体を募集中です。「グリーンスローモビリティの導入に向けたポイント集 (<http://www.mlit.go.jp/common/001239779.pdf>)」を参考に、是非ご応募ください。

応募方法等は [こちら \[http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000164.html\]\(http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000164.html\)](http://www.mlit.go.jp/report/press/sogo10_hh_000164.html)



白熱するパネルディスカッション

中国運輸局が紹介する「公共交通での旅」

(中国運輸局)

皆さん、今年の3月31日の運行を最後に廃止となったJR三江線の沿線のその後をご存じですか？

三江線沿線では、地域にお住まいの皆さんの移動実態に合わせた3つのエリアを設け、路線バスを中心とした代替交通が運行されており、通学・通勤、通院、買い物といった日々の生活を支えています。また、三江線の沿線資産を活用したイベントも次々計画されています。

◆「ええなあまつりかわもと」 7月28日(土)開催

旧石見川本駅(島根県川本町)において、線路を利用したレールバイクを体験できます。

<http://www.town.shimane-kawamoto.lg.jp/doc/event-cal/81> (川本町HP)

◆「三江線ミニトレインプロジェクト」 8月12日(日)開催見込み

旧鹿賀駅(島根県江津市)において、三江線のミニトレインを作成し走らせるイベントが計画されています。(現在クラウドファンディングを実施中)

<https://readyfor.jp/projects/sanko-minitrain>

このほか、「天空の駅」として知られる旧宇都井駅(島根県邑南町)については、JR西日本と邑南町との間で来年1月末までの無償貸借契約が締結されました。駅を活用したイベントの開催が期待されます。

では、三江線沿線に公共交通で行こうと思ったときに、どのように情報を得たらよいのでしょうか。現在は、最新の時刻表を沿線6市町及び中国運輸局のHP(http://wwwtb.mlit.go.jp/chugoku/kousei/sankoline_busmap.html)に掲載しているほか、「三江線ポータル(<http://r.goope.jp/sankou-sen>)」というウェブページにおいて、観光で利用しやすいマップも公表されています。

しかし、見知らぬ土地に行くにあたってバスの時刻表を見ても、なかなか利用するイメージが湧かずに「本当にこれで行きたいところに行けるのかな。」「帰ってこれなくなったらどうしよう。」と不安になる方もいるのではないのでしょうか。

中国運輸局では、「ぶらり旅日記(<http://wwwtb.mlit.go.jp/chugoku/kousei/tabinikki.html>)」と題し、中国地方を初めて訪れる方にもおすすめのスポットを公共交通で回るプランをご紹介します。

また、三江線沿線を始めとする中国地方の各地を、職員が実際に公共交通を利用して走り回った「公共交通で訪れる旅」を地域公共交通メールマガジン(中国運輸局版)にて配信しております。

第1回 島根県飯南町

https://wwwtb.mlit.go.jp/chugoku/kousei/mail_magazine/chugoku/zyouhou/tabi01.pdf

第2回 岡山県北部

https://wwwtb.mlit.go.jp/chugoku/kousei/mail_magazine/chugoku/zyouhou/tabi02.pdf

第3回 鳥取県東部

https://wwwtb.mlit.go.jp/chugoku/kousei/mail_magazine/chugoku/zyouhou/tabi03.pdf

第4回 山口県、島根県

https://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/kousei/mail_magazine/chugoku/zyouhou/tabi04.pdf

第5回 広島県

https://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/kousei/mail_magazine/chugoku/zyouhou/tabi05.pdf

第6回 三江線沿線

http://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/kousei/mail_magazine/chugoku/zyouhou/tabi06.pdf

第7回 島根県出雲市

http://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/kousei/mail_magazine/chugoku/zyouhou/tabi07.pdf

このように、中国運輸局では公共交通の利便性、魅力を発信し、利用促進につなげる取組を進めています。皆様もぜひ、公共交通で各地を回って下さい。きっとマイカーとは違う発見がそこにはありますよ。中国地方でお待ちしております。

【参考情報】

<三江線沿線地域公共交通再編実施計画>

<http://www.tb.mlit.go.jp/chugoku/release/18030202.html>

※添付資料にて、江津から三次まで「乗り通し」できるダイヤについて情報提供しています。

<中国地方の公共交通について>

◆ICカード

- ・広島県の路面電車、バス等には PASPY（パスピー）という地域ICカードが導入されています。PASPYが使用できる車両では、Suica、ICOCA等の全国共通型ICカード※が利用できます。
- ・岡山県の路面電車、バス等には Hareca（ハレカ）という地域ICカードが導入されています。岡山電気軌道、下津井電鉄(株)、両備ホールディングス(株)においては全国共通型ICカードが利用できます。

※kitaca、PASMO、Suica、manaca、TOICA、PiTaPa、ICOCA、はやかけん、nimoca、SUGOCA

◆情報検索

- ・コミュニティバスも含む鉄道・バスの情報はパソコンやスマホのアプリを使用して経路検索することができます。
- ・広島県、岡山県南部、鳥取県、島根県の主要な鉄道・バス、瀬戸内海の航路については、Googleマップでも検索が可能です。



< 掲 示 板 >

☆ 地域公共交通支援センター

公共交通政策部では、市町村をはじめとする各地域の関係者が、地域公共交通の確保・維持に取り組む際に有効に活用いただくため、全国各地における様々な先進事例（約300事例）を蓄積している「地域公共交通支援センター」を運用しております。

「地域公共交通支援センター」は、地域、人口、交通モード等により、先進事例を検索することも可能となっております。是非ご活用下さい。

<地域公共交通支援センター> <http://koutsu-shien-center.jp/index.html>

☆ 公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」

公共交通利用促進キャラクター「のりたろう」（以下「キャラクター」という。）は、公共交通の利用促進について、より効果的な広報・啓発を行うことを目的としております。

キャラクターの使用を希望される場合、地方運輸局交通政策部交通企画課までお問い合わせ下さい。申請手続きについてご案内致します。

なお、「地域公共交通支援センター」においても、キャラクターの申請手続き、使用方法、FAQをご案内しております。

公共交通利用促進キャラクター のりたろう



大好きな公共交通機関で働くことを夢見ていたが、ネコでは単独で乗り降りができないことから一念発起。自らが新たなハイブリッド公共交通機関に進化することで夢を実現し、現在は利用促進PRの先頭に立って活動している。

駅長を務めるなど活躍中の仲間達を同じネコとして尊敬しており、いつか会って公共交通について熱く語り合いたいと思っている。

- ・移動手段は「ネコ足歩行」
- ・自由に移動できるが、疲れてしまうので100歩ごとに休憩が必要
- ・乗車可能人数は運転士（のりたろう本人）を含めて1名のみ！

読者の皆様からのご要望や全国に共有したい情報等がございましたら、以下の【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【お問い合わせ先】

国土交通省総合政策局公共交通政策部交通計画課 石橋

〒100-8918

東京都千代田区霞が関2-1-3（中央合同庁舎3号館3階）

TEL：03-5253-8275（直通）

FAX：03-5253-1513

E-mail: koutsukeikaku_joho@mlit.go.jp

★国土交通省HP（情報発信のページ）

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/sosei_transport_tk_000039.html

